

press release

COLLECTION EXHIBITION

夏の所蔵作品展



九本ノマ (動物)
広島県立美術館蔵

サマーミュージアム

どうぶつ あつまれ!

SUMMER MUSEUM ANIMAL GATHERING

2021 7 | 8 | 9 | 12 SUN



広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

2階展示室
<http://www.hpam.jp/>

【開館時間】9:00~17:00 (金曜日は20:00まで開館) ※入場は閉館の30分前まで ※8月9日は展示替えのため閉室

【入館料】一般510(410)円/大学生310(250)円 ※()内は20名以上の団体 【縮景園共通券】一般610円/大学生350円 ※特別展は別料金

※高校生以下無料 ※当館で開催中の特別展入館券にて無料でご覧いただけます。 ※障害者手帳をお持ちの方や65才以上の方、県内の大学に在学する留学生の方などは無料(1歳総合受付でお申し出ください)。

【概要】

夏の所蔵作品展 サマーミュージアム どうぶつ あつまれ！

1968(昭和43)年に開館した広島県立美術館は、1996(平成8)年に現在の建物に生まれ変わり、所蔵作品展と特別展という両輪によって美術の魅力を発信しています。当館は開館以来、多くの方々のご協力を得てコレクションを充実させてまいりました。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を掲げ、現在は総数5,000点を超えています。

当館は、昨春に続いてこの春にも新型コロナウイルス感染拡大防止のため、5月10日から6月20日まで臨時休館しましたが、今夏は再びみなさんに美術館を楽しんでいただけることをうれしく思います。

さて、今期の所蔵作品展では、「サマーミュージアム どうぶつ あつまれ！」と題し、幅広い年代の方々にお楽しみいただける展示を行います。実寸大の造形にこだわりを持ちつつ愛嬌ある動物表現で人気の高い三沢厚彦の木彫作品に始まり、当館の「顔」のひとつであるサルバドール・ダリ《ヴィーナスの夢》に登場する燃えるキリン、版画家・吉原英雄の人気の『ペットショップ』シリーズや、江戸時代から近現代までの日本画に見られる動物、そして明治以降の広島に息づく漆工芸・高盛絵の大成者である三代金城一國齋が表現する獅子や鶴そして虫たちといった多様な美術表現の世界に遊んでいただければ幸いです。あわせて、今期作成のミニガイド『三代金城一國齋』もぜひ手にお取りください。

会期中には、ギャラリートークや対話型鑑賞会、インスタグラムのライブ配信などの関連イベントも開催して、さまざまな楽しみ方をご提案します。

当館は新型コロナウイルス感染拡大防止策を施して皆様をお迎えますので、ご理解とご協力をお願いいたします。ご来館のたびに新しい美の魅力を発見し、心と癒やされる展示をめざし、今後も努力を重ねてまいります。今年度の所蔵作品展にもご期待ください。

【彫刻展示室】刻まれた動物が語るさまざまな物語

山や森の守り神として人々が畏敬の念を持って接してきた動物や、私たちの生活に深く溶け込んでいる動物、そしてテレビや写真でしか見る事のない恐ろしい猛獣など、動物にもさまざまなものがあります。今回はそうした動物を表現した作品をご紹介します。

一口に動物の表現と言っても、動物の姿を寓意として作品に取り込むえんつぽ かつぞう圓鏗勝三のような作家もいれば、犬のように身近な動物をはじめシロクマやキングチーターといった猛獣まで、さまざまな動物を表情豊かにあらわすみさわ あつひこ三沢厚彦や、ふくろうの姿を通して周囲に広がる森まで感じさせるやまもと じょういち山本常一、あるいは幻想的な世界をロマンチックに描き出すこたにい ゆたか小平胖可など、その表現は様々ではありません。

そうした、それぞれの作品に用いられた表現の違いに目を向けると、それぞれの作家が作品に託した思いや物語が感じられることでしょう。

この展示では、是非ひとつひとつの作品に向きあって、自分だけの物語を引き出してみてください。きっと今までとは違った世界が見えてくるはずです。ゆっくりとお楽しみください。



三沢厚彦《Animal2006-05》2006年

【第1展示室】サルバドール・ダリ、収蔵品全公開！

20世紀を代表する画家サルバドール・ダリは、スペイン北東部、バルセロナを州都とするカタルーニャ地方に生まれました。精緻な筆致によって存在し得ない世界を描くその作風もさることながら、水あめを用いて口髭をピンと固めた独特の相貌や、自分を「天才」と言って憚らないユニークな発言も相まって、ダリは時代の寵児となりました。

当館では、ダリの油彩画の大作《ヴィーナスの夢》と挿画本『マルドロールの歌』を収蔵しています。『マルドロールの歌』は、当時の芸術家たちに大きな影響を与えた散文詩に寄せて描かれた版画作品です。また、《ヴィーナスの夢》は、1939年のニューヨーク万国博覧会において同名のパビリオンに展示するために描かれたもので、いずれもダリの画業における重要な作品です。

アメリカでは、1936年にニューヨーク近代美術館でダリの作品が紹介され、肖像写真が雑誌『TIME』の表紙を飾るなどメディアでの露出が高まり、その存在が広く知られるようになります。そして、1939年にニューヨーク万博が開催されるにあたって、パビリオンのデザインを手掛けました。この展示室では、当館のダリ作品をすべて展示するとともに、ニューヨーク万博関連の資料などを交えながら、その活動と作品を掘り下げてご紹介します。

また、今期の所蔵作品展では、全体を通じて「サマーミュージアム どうぶつ あつまれ！」というテーマを掲げています。ダリ作品に登場する「動物」の不思議な表現にもご注目ください。

【第2展示室】動物たちをさがそう

この展示室では、木版や銅版、シルクスクリーンなど様々な技法による版画作品を中心に、油彩画や素描も含め、身近な動物が登場する作品をご紹介します。

広島県尾道市出身の吉原英雄よしはら ひでおは、戦後の日本版画史に独自の足跡を残した作家です。『ペットショップ』シリーズでは、主役の動物を物語性のある画面構成で表現し、洗練された色彩感覚と構図により、軽やかさや躍動感、精悍さなど、愛らしさだけではない動物の特性を生き生きと描き出しました。

対照的に、点景のように小さく描き込まれた生きものが画面に趣を添え、豊かな印象を残す作品もあります。小林徳三郎こばやし とくさぶろうの油彩画では、かすかに波紋を立てる金魚の姿が、涼感とともに穏やかな夏のひと時を感じさせ、寺田政明てら た まさあき《二つの道》では、渦巻くエネルギーに飲み込まれそうな一匹の犬の存在が、孤独や不安を体現するようです。

親近感や生活感、生命力や温か味といった様々な要素を作品にもたらす動物たちの存在。再現性の高い写実的作品から、形態を単純化することで普遍的なイメージやデザイン性を獲得した水船六洲みづふね ろくしゅうや菅井汲すがい いくみの作品まで、動物の多彩な表現やイメージの広がりをお楽しみください。



吉原英雄 版画集『ペットショップ』より
ガラスの向う側 1979年

【第3展示室】どうぶつさまざま

—お庭の鯉から伝説の生き物まで

この展示室では、人里や野山、海川、そして伝説のなかで人間と共に生きてきた動物たちの姿を、日本画作品によりご紹介します。

最初に取り上げるのは鯉です。広島県を象徴する鯉といえば、もちろん広島東洋カープですが、人間と鯉の歴史はとても古いようです。有名なことわざ「登龍門」は、急流を登り切った鯉が龍になるという伝説をもとに誕生した紀元前2世紀、中国（後漢）の故事に基づくもので、この「鯉の滝登り」を描いた絵画作品は立身出世の縁起を担ぐものとして人気を得ました。

動物は古来、たとえば自然への畏怖や関心の対象として、あるいは人間の心情や願いを託された存在として、花鳥画の主題とされました。江戸時代には博物学の興隆によって対象をありのままに写し取ろうとすることが盛んになり、明治以降には画家自身の自由な創作意欲、表現手法によって個性豊かに描かれるようにもなりました。時代や作者、作品により動物表現のあり方は千差万別です。動物への向き合い方、捉え方、描き方の違いにご注目ください。

また、当館では昭和から平成の日本画壇をけん引した広島出身の画家、こたま きほろ おくだ げんそ へらやま いく お児玉希望、奥田元宋、平山郁夫の作品を展示しています。今期は原爆忌にあわせて平山郁夫《広島生変図》などをご覧ください。



丸木 スマ《動物》1952年

【第4展示室】三代金城一国齋 広島漆工芸・高盛絵

この展示室では、広島を代表する伝統工芸のひとつであるたか もり え高盛絵について、この技法の大成者である三代金城一国齋きんじょう いっごくさいを中心に紹介します。

高盛絵は、漆と砥の粉を練り合わせたペーストを筆で器面にのせ、高さを求めるときには2回、3回と重ねて盛り、最後に色漆で彩色して仕上げる技法で、ついでいしつ堆彩漆とも呼ばれます。

初代一国齋（澤木正平）は、尾張徳川藩お抱えの塗師であったといいますが、幕末期、二代（中村一作）によって「金城一国齋」の名とその漆芸技法が広島に伝えられました。きっかけは、眼病治療のため広島・江波村に滞在していた二代が、近隣に住んでいた木下兼太郎少年（後の三代）と出会い、その才を見込んで漆芸技法を伝授したことによります。兼太郎は二代に付き従って10年ほど研鑽を積み、25歳の時、金城一国齋の名を譲り受けました。

金城一国齋の名を受け継いだ三代は、さらなる研究を重ねて、二代が創始した高盛絵の技法を完成させ、各種博覧会・共進会への精力的な出品を通じて、高盛絵の名を全国に轟かせました。戦前の広島は、政治的にも経済的にも大いに繁栄し、高盛絵に従事する者も増え、高盛絵は広島の代表的な工芸としての地位を確立していききました。

このたびは、約20点の作品により、先頭に立って高盛絵の発展に尽くした三代一国齋の仕事を紹介します。また、七代金城一国齋氏のご協力により、高盛絵の道具も併せて展示します。三代一国齋ならびに高盛絵について広く知っていただける機会となれば幸いです。



三代金城一国齋《獅子牡丹高盛絵菓子器》1886年

【関連イベント】

■ インスタライブ配信

閉館後の展示室内からギャラリートークをライブ配信します。(約15分間)

① どうぶつさまざまーお庭の鯉から伝説の生き物まで

日時: 2021年7月15日(木) 17:00～

講師: 隅川 明宏(当館学芸員)



公式Instagram

② 三代金城一國齋 広島の漆工芸・高盛絵

日時: 2021年8月12日(木) 17:00～

講師: 岡地 智子(当館学芸員)

■ リレートーク

当館学芸員が各室の見どころをリレー形式でご紹介するトークイベントです。(ワイヤレスガイド使用)

日時: ① 2021年7月30日(金) 15:00～15:45

② 2021年8月6日(金) 15:00～15:30

場所: 2階 展示室

講師: ① 角田 新、山下 寿水、藤崎 綾(当館主任学芸員)

② 隅川 明宏、岡地 智子(当館学芸員)

定員: 8名

※要事前申込【Tel.082-221-6246(当館)】

※要入館券。会場入り口でお待ちください。

■ 対話型鑑賞

夏の所蔵作品展に出品中の作品から、学芸員が選んだいくつかの作品をみんなで話しながらか鑑賞します。

(機材や接続環境、Zoomの操作につきましては、各自でご準備をお願いします。)

日時: ① 2021年8月21日(土) 14:00～

② 2021年9月4日(土) 14:00～

ナビゲーター: 森 万由子、岡地 智子(当館学芸員)

参加方法: ① 2階 展示室(ワイヤレスガイド使用) ※要入館券。会場入り口でお待ちください。

② オンライン(Zoom)

定員: ① 8名 ② 6名

※要事前申込【Tel.082-221-6246(当館)】

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、

1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

◎御来館の皆さまへ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の対策を行っています。ご理解とご協力をお願いします。

■次に該当するお客様は、入館をご遠慮ください。

・発熱や軽度であっても咳、のどの痛みなどの症状がある方

■ご協力をお願い

・マスクの正しい着用、手指のアルコール消毒、咳エチケット

・会話は控えめにし、特に大声での会話は行わないでください。

・人と人との接触を避けるため、できるだけ1mの距離を空けてください。

・来館者が多い場合は、入場制限を行う場合がございます。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 神内 有理

総務課 広報担当 一色 直香、弘津 かおる